



イエスのカリタス友の会だより

30号 2017.7.1 発行

希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。ローマ 5-5

イエスのカリタス友の会の皆様、この冊子をご覧になってくださっている皆様、今年もまた夏がやって参りましたが、お元気でいらっしゃいますか。

イエスのカリタス友の会が、外国宣教活動を支援して下さっているイエスのカリタス修道女会は、今年8月15日に創立80周年を迎えます。一人ひとりの人生の歩みが多くの方々に支えられているように、私たちの修道会の歩みもまた、神様の大きな恵みと多くの方々の善意に支えられてきました。変わらない愛の心で、私たちを支え、励ましてくださるイエスのカリタス友の会の皆様に、心からお礼申し上げます。

教皇フランシスコはローマのサン・ピエトロ広場で水曜日毎にお話をなさっておられますが、いつしみの特別聖年が終わった昨年12月からのテーマは、連続して‘希望’についてです。その中の一つに「希望するすべもなかったときに抱く希望」というタイトルがありました。それを見た時、私は「4本のローソク」という次の話を思い出しました。

「4本のローソクがゆっくり燃えていました。まわりはとても静かで、ローソクが互いに話し合う声が聞こえていました。

1番目が言いました“わたしは平和だ。…しかし、光っていても人々はわたしを保たない。この世界は戦争や憎しみでいっぱいだ。”平和の炎は小さくなって完全に消えてしまいました。

2番目が言いました。

“わたしは信仰だ！…不幸なことに、わたしは余計なものになってしまいました。人々はわたしに興味がありません。照らしていても仕方がありません。”話し終わったとき、そよ風が吹いて消えてしまいました。

3番目(愛)は、悲しくなって言いました。

“燃え続ける力がありません。人々はわたしを無視して、その態度に気付いていません。彼らはそばにいて愛してくれる人のことでさえも忘れてしまいます。”こう言って、消えてしまいました。

突然…子どもが入ってきて三本の消えたローソクを眺めました。“これはどういうこと？最後まで燃えてるはずではないの!”こう言って、泣き始めました。

そのとき、4番目のローソクが話し始めました。

“恐れることはありません。わたしは希望です。…わたしが燃えている限り、ほかのローソクを燃やすことが出来ません。”

子どもは目を輝かせて、燃えているローソクを持って、ほかの3本に火をつけました。

「最も大なるものは、愛である。」(1コリ13-13)しかし、希望の炎をあなたの生活から、決して消してしまっちゃいけません！そうするなら、あなたは平和と信仰と愛を生きていくことができるでしょう。」

しかしながら、希望の炎を消さないことは易しいことではありません。教皇はこう言います。「私たちの希望は理性や洞察力や人間への信頼に基づいているのではありません…希望は、もはや希望がもてない時、希望するすべもない時に生じます…神が私たちを愛し、私たちを救ってくださることを確信し、その神に心を開くこと。そうすれば、主は驚くようなことを行い、本当の希望とは何かを教えてください。心を開きさえすれば、あとは主が行ってください。」



今年、2月7日に大阪でユスト高山右近が、教会によって福者として列福されました。キリストを信じたために、大名の地位を追われ、自由を奪われ、度々いのちの危険に晒され、過酷な生涯を送りながらも、信仰を守り通した右近は、神のみを信頼し、すべての困難を受け入れて神に従った人、つまり、神に心を開いた人と言えらると思います。そして、右近の後に続くクリスチャンたちは、厳しい迫害の中、約250年間信仰を守り、子孫に伝えました。この方々は、希望するすべもない中で、神に希望をつないできた人々と言えます。1865年3月17日浦上のクリスチャンたちは、プチジャン神父に「ワレラノムネアナタノムネオナジ」と告げます。神だけを心の拠り所として来たクリスチャンたちが、ムネ(心)という言葉で、神父に心を開いて信仰を証したことは、教皇が言う「神に心を開くこと」につながっていて、感動を覚えます。当時、日本に5万人の信者が残っていたことを最近知り、驚いています。「希望は、私たちを欺くことがない」のです。このことばに信頼していきたいと思えます。

イエスのカリタス友の会の皆様、暑い夏、くれぐれもご自愛ください。皆様のために感謝をこめてお祈りしています。

イエスのカリタス友の会コーディネーター
シスター 峯 妙子



ブラジルより感謝のお便り

サン・マテウス カリタス学園奨学金援助の支援

サン・マテウス カリタス学園は開設して18年になりました。カトリック経営の学校が無い貧しい地域に質の良い教育施設を始めたいと開始した際にも、イエスのカリタス友の会の皆様のご支援をいただきました。心から感謝いたします。多くの方々に助けられて始まった学校は、現在良い教育をしてくれる学校として地域の人々に知られています。1999年に7名の園児で始まりましたが、現在は幼稚園から高校まで500名の生徒に恵まれています。週末には30~40名の近所の貧しい地域の子供たちがオラトリオ活動に参加しています。また、カリタスの生徒の他、外部の青少年も無料でマーチングバンドに参加しています。貧しい地域の教育向上を図って私立校を設立しましたが、学校経営はとても困難です。国の制度により、私たち私立校も公立校同様障がいを持つ生徒を受け入れています。私立校には、その為の政府からの援助は一切ありません。学校の良い評判を聞いて、様々な障がいを持つ子供たちの数が増加する一方、受け入れ側では環境設備、専門職員、助手の増員等をし

なければなりません。定員を大きく超えていても、入学志願してくる障がい者を断ることが出来ない厳しい法律があります。断ると即、裁判問題に発展し、教育の場として大きな痛手を受けることとなります。

経営困難のため経営コンサルタントのアドバイスを受けながら赤字経営解決を目指しています。アドバイスの一つとして奨学金を受け取る生徒のパーセンテージを低める必要が指摘され、2016年は24名にとどめました。2017年度にはブラジルの経済危機のため失業者が増加し、問題のなかった家族からも奨学金申請があり、2016年11月13日現在34名になりました。2016年の授業料未納のため、来年の入学手続きができない生徒が3人います。これからも奨学金申請が続くことが予想されます。これまで、家族と学校が力を合わせて教育してきた子供たちが続けてカリタス校で学ぶことができるための奨学金申請金額は32,500.00ドルです。

どうぞご検討頂きご支援いただけますようお願いいたします。

申請金額 32,500 ドル

この申請について、資金全額を支援することが可能であったため、申請は受け入れられ、ブラジルへ全額お渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。



イエスのカリタス友の会の皆様へ

今日、サン・マテウス カリタス学園の口座に98,888.60 レアイスがやっと入りました。この喜びと感謝の気持ちは2月9日にドルが銀行に届いているという知らせを受けた時から続いています。子供たちが熱心に学んでいる姿や、喜びにあふれて駆け回っている姿を見ながら友の会の多くの会員の皆様に深い感謝の心がわいて参ります。奨学金で学んでいる子供もそうでない子供も何の差別を感じることなく学校生活を営んでいます。友の会の皆様お一人おひとりの愛情を受けながら学校に通うことを楽しみに生活しています。一人ぼっちで寂しそうにしている子供は誰一人いません。それは先生方も休み時間にはともにいるからです。私たちの学校が誇りにしていることは一人ひとり生徒を大切にしていることです。皆様の支援を頂ける前は、月謝が払えないので、公立学校に行かなければならない生徒が何人もいました。でもその子たちは公立学校に行くことを大変恐れて、お母さんが親戚に援助を願って教科書を買うことができ、さらに友の会の皆様の援助で100%の奨学金で続けて学校に通っています。本当にあ

りがとうございます。

ここの学校では課外授業を授業料が払える子供もそうでない子も参加できるように一つだけは無料にしています。一番好評なのは、バレエ教室です。また学校での運動会は日本の伝統を生かして毎年行っています。はち巻の色はブラジルの旗の黄色と緑でしたが、毎年必ず緑のチームが負けるので、今回から色を変えてみました。結果はどのようなのでしょうか。これから教育内容の向上のため絶えず努力して参りたいと思います。

今年はブラジルの政治家の汚職の問題に始まりすべてに及んで政治家や権力者の悪が発見されています。経済危機といいますが、人間の貪欲の問題が暴かれています。教育の大切さを切実に感じています。ブラジルの経済状況は昨年よりも悪化すると思われています。しかし、神様に信頼し、友の会の皆様の力強い助けをいただきながら前進していきたいと思日々教育に力を入れています。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

シスターベルナデッテ中川
サン・マテウスカリタス学園校長





ボリビアより感謝のお便り

オガールファチマの子供たちの養育に携わる保母 2 人分の給与

オガールファチマ乳幼児施設には、現在孤児、虐待児、麻薬患者や受刑者の子供、並びに極貧などの理由で、市や県の福祉課が措置する 0 歳から 6 歳までの乳幼児 60 余名が収容されています。シスターたちが、養育、医療、教育など生活全般に関わる対応をして彼らの心身の成長の促進に努めながら、カリタスのあたたかい愛の中で成長出来るよう、日夜努力しています。子供達のお世話や施設運営のため、保母 21 名、他に炊事 2 名、洗濯 1 名、庭や家屋の維持管理の仕事人 2 名、看護婦 6 名、医師 1 名、心理士 1 名、社会福祉士 1 名、事務員 1 名、代理保母 2 名を雇用しています。ま

たボリビアは有給休暇日数が多く、産休者には、産休の他に 1 年間、1 ヶ月の給料分の支援物資の支払いもしなければならぬので、多額の人件費がかかります。

上記の雇用者のうち 22 名の給与は国の支援がないため、修道会が支払っていますが、私たちには収益がありませんので、全額寄付金に頼っています。幸い 22 名のうち 18 名はアメリカの援助団体から支援を頂いています。しかし不足の 4 名分を調達しなければなりません。つきましては不足の 4 名分のうち 2 人分の給与をご援助下さいますようお願い申し上げます。

申請金額 10,500ドル

この申請について、資金全額を支援することが可能であったため、申請は受け入れられ、ボリビアへ全額お渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。



イエスのカリタス友の会の皆様

主イエスのご復活の神秘に満たされて、希望と喜びの証を第一として励んでおられる皆様に、心よりお祝い申し上げます。

現在、オガールファチマは春のような柔らかな陽ざしで温まった穏やかな空気が漂っています。まるで、友の会の皆様方のあったかい愛の手で包まれた心地よさです。さらに砂漠でオアシスを見出したような、安堵、平和、安心の気分を味っています。今年も寛大なご支援を頂戴して、大変嬉しく心よりお礼申し上げます。

私たちの申請書を速やかにご検討下さって、即座に手元に届くよう寛大なご配慮を頂き、本当に有難うございます。確かに申請額通り10,500ドルを、受け取りました。

この5月に国の基本給料アップを要求する労働組合側の闘争に応じて、ボリビアのエボ大統領は、政権延長強化策と思える、大幅値上げ10.8パーセント上昇を決定しました。何も収入源のない当施設は、急激なアップに悩んでいます。昨年、2回の年末ボーナスが1回だけになって、雇用主側はホット胸を撫で下ろしたところでしたが、この年末また2回になる心配がします。

強気の大統領に対抗して、オガールは、つぶれてしまわない為に何かと工夫しなければなりません。それには神様を味方に付けるほか、最良策はありません。神様はたくさんの寛大な友人をお持ちですから、その友人を必要に応じて、遣わしてください。イエスのカリタス友の会の皆様方も、特別な神様の友人でいらっしゃるのです、私たちの必要をご存知の



神様は、早速、カリタス友の会のご支援を、ご配慮くださったと信じます。

オガールファチマがあるサンタクルスは、昨日は暑かったり今日は寒かったりと、気候の変化の激しい毎日を繰り返しながら、だんだんと冬の季節に向かっていきます。オガールの乳幼児たち60名余は、気候の変化のため風邪、下痢になったりしますが、幸い強い感冒や肺炎などに罹る子はなく、皆、元気に笑ったり、おもちゃの取り合いで、泣いたり泣かせてしまったり、噛み付いたり噛み付かれたり、怒って床に大の字になって、気がすぶまで長泣きするなど、様々な体験と出来事の中で成長しています。私たちも喜怒哀楽をともにし、子供たちのやんちゃだけれど純真無垢な姿から元気をもらって励まされる日々をすごしています。

今年の1月から2月にかけて、幼児の20名余が、養子や就学のためオガールファチマを巣立って行き、また種々の理由で新しく20名の乳幼児が、オガールの家族となりました。イエスのカリタス友の会の皆様の給与ご支援により、大家族のオガールファチマは今年もま



た、安らかに歩み続けることが出来ると思います。

この5月13日は、ちょうどファチマの聖母出現から100周年記念日に当たります。聖母

マリアのお取りなしによって、イエスのカリタス友の会の皆様方が更にご健康に恵まれ、ご活躍される事を、お祈り申し上げます。

2017年5月10日

ファチマの聖母乳幼児の家(オガールファチマ)

シスターベネディクタ立石





南スーダンよりお礼とご報告

イエスのカリタス友の会の皆様へ

いつも心温まる沢山のご支援に感謝致します。

南スーダンから、近況をお伝え致します。昨年7月の南スーダン独立記念日から始まった内戦は収まっていますが、各地では、まだまだ予断をゆるさない状態が続いています。私達の教会の敷地内は、2013年、2016年の2回の内戦で、難を逃れて来た4000人程がテント生活者として暮らしていますが、毎日新しい国内難民が来ています。南スーダンの経済は、混乱していて、国民は、毎日の糧を探すのに必死ですが、それでも難民キャンプにいる人は、食糧や物資の支援が頂けます。はっきり存在が見えているので、支援がし易いからです。しかし、教会の敷地外の村人は支援が受けられないので、キャンプにいる人と村人の間に、争いが生じています。多くのNGOも国連からの食糧配給も難民キャンプにいる人だけが支給されます。そのため、村人の不満はますます大きくなります。そして、その不満は私たち、教会に来ます。彼らに怒りをぶつけられる度に、「不満をぶつける場所が違うでしょう。国民を守る義務があるあなたたちの大統領と政治家に訴えなければ、この状況には終わりが無い。」と話すのですが、彼らも銃で制されるため、簡単には解決

できないことも事実です。

彼らは部族ごとに反政府グループをつくり、各地で小競り合いを起こしています。南スーダンは、資源が豊富にあり、食糧も国内生産すれば、国民は飢えることはないと言われていますが、土地を

自分達で破壊してしまっているのです。特に銃をもつ力のある人たちが。

銃の前には、無力な私たちですが、「ここは、あなたたちの国。働いて、毎日の糧を確保しましょう。教会の前に一日中座って、神父様、シスターからの食べ物を待つのは止めましょう」と話しました。今は、畑を耕したり、草刈りなどできる季節になりましたから、教会内の畑で働いてもらい、日本の米にあたるトウモロコシの粉を、1日分渡し、共に働いて頑張っています。彼らは、「お腹がすいて働けない」と途中で言い出すので、その時にはミルクとビスケットを食べて頂いてからお昼まで働いています。午後から暑くなるので、畑仕事はできなくなりますから。しかし、働く力のない子供と老人、病人には、手をさしのべなければなりません。何日も食べてない人は、シスターたちを頼りに、やって来ます。4カ月も給料が支払われていない兵士、学校の教師、病院のスタッフには、彼らの家族も多いので、少しの食糧を分けています。

皆さまからのご支援は、このような方々の食糧支援のため、使用させていただいています。7月にはまた、南スーダン独立記念日がきます。今回もまた、大きな内戦が起きるのではないかと、懸念されていますので、続けて南スーダンの平和のため、お祈りとご支援をよろしくお願いいたします。

南スーダン宣教女 シスター下崎 優子





毎日食糧をもらうため、教会の前に座り込んでいます。



教会の柵の外で並んでいます。この日は200人



食料は、皆さんからの支援金で購入したものです。



この日は教会のビンセシオ会のグループで、最も助けの必要な人に配ったカードをチェックして、数名ずつゲートのなかに入れて、トウモロコシの粉10kg入りのものを配付しています。カードと人をチェックするのは、教会まで取りに来られない、お年寄り、病人に代わり、近所の人や家族がきますが、似たカードをつくり、もらいに来る人がいるからです。カリタスシスターの印鑑を目印にして、ノートにある名前と照らし合わせているところです。



買ってきたものは、コンテナに入れ、厳重に鍵をかけています。毎晩教会には泥棒がきます。

南スーダンのためのご支援、特に、前号発行後多くの皆様にご支援を頂きましたことを心から感謝申し上げます。南スーダンは、情勢が不安定で、銀行も機能していないため、一番確実な方法は直接届けることです。そのため、頂いたご寄付は、すべて修道会のローマの総本部を通して、直接南スーダン届ける方法をとっています。皆様から南スーダンを指定して頂いたものは、まず3月に宣教女として派遣されたシスター

に、その後寄せられた支援金は、サレジオ学院中学校・高等学校からの教育支援のための多額の献金と共に、11月に南スーダンを視察訪問する総本部の3人のシスターによって届けることにしています。このような事情により、お寄せいただいた支援金を、すぐに届けることはできませんが、現地には支援のあった報告をしています。必ず、安全な方法でお届けいたしますのでこれからもよろしく願い致します。



スモールクワイアの活動報告

スモールクワイアはコンサートと活動を含めて年に15回程出演の機会を頂いています。今年度もすでに12月まで10回のご依頼を頂きました。平常はそれぞれ使徒職をしておりますので、出演できるメンバーを集めることに苦労する時もありますが、私たちをお使い頂けることに感謝して、これからも励んで参ります。

今回はスモールクワイアの活動の中から、被災地関連のコンサートについてご報告致します。被災地へは昨年12月に行きましたので、状況に少し変化はあると思いますが、現地の方々はまだに様々な困難を抱えながら生活しておられます。この現状に対して、ご理解とお祈りをくださいますようお願い致します。

2016年12月20～22日 宮城県南三陸町でのコンサート

米川公民館、伊里前の復興住宅、南三陸町のぞみ作業所、志津川西復興住宅、慈恵園(入谷)

被災地でのコンサートに参加したメンバーの感想

今回被災地でのコンサートに参加させて頂き、被災された方々に「皆さんのために祈っています」と直接お伝えする機会を頂けたことは、大きなお恵みであったと感じています。コンサートが終わった後、「生きていてよかったんだと思えた」とおっしゃって、涙をながされた方のことが忘れられません。私たちにできることは、ほんのわずかなことかもしれませんが、痛みを抱えたままの方々に対して思いを寄せ続けること、そしてそのことが相手に伝わるように行動することをこれからも続けて行けたらと思います。

震災の半年後に見た南三陸町の姿と6年後の今の姿は大きく変わっていましたが、出会った人々の心はまだ悲しみや不安でいっぱいでした。私たちの祈りと支援の必要性を感じました。ボランティアも減っていることに驚き、できる限り自分も協力したいと心から感じた3日間でした。



2017年3月18日 東日本大震災追悼と復興を願うコンサート in カトリック目黒教会

祈りと和やかな雰囲気の中、昨年同様、特に被災地の復興を願い、震災の犠牲者のために祈る方々が集まってくださいました。私たちスモールクワイアもできる限り練習をして今日に臨みました。最初は緊張気味でしたが、会場の皆さんの励ましとお優しいお心に後押しして頂いて、歌い終えることができました。実は練習の時よりも本番の方が良かった歌もあり、神様にご自分の良き道具となるように力を頂いたと感じることが出来ました。私たちにとってもお恵みの時間、そして懸命に祈る時間となった事を心から感謝しています。



井萩聖母幼稚園クリスマスミニバザー



2016年12月13～15日、井萩聖母幼稚園のクリスマス会に出店させていただきました。3日間とも天気に恵まれました。クリスマス会は年少組から始まります。年少組は園児、保護者とも初めてのクリスマス会。バザーの収益は、貧しい子ども達の為に使われること伝え、保護者の皆さまは興味津々でシスターの手作りケーキ、漬物、EM石鹼、手芸品などを手にとり、お子さんに声を掛けながら買って行かれました。年長組になると、園児が自分でロザリオ、カードを真剣なまなざしで探し、お気に入りを見つけ、買って行きました。それぞれ微笑ましく思います。よいクリスマスをお迎えになられることを願いました。

下井草教会クリスマスバザー



の報告



下井草教会春のバザー



4月23日、復活祭の次の週はお天気に恵まれました。当日はシスターの手作りケーキのほか多くの品物が集まり、おかげさまで盛大なバザーを行うことができました。ありがとうございました。また、若い人達のお手伝いもあり、これからのバザーが楽しみです。



カトリック碑文谷教会バザー



5月28日(日)にカトリック碑文谷教会でバザーが行われました。バザーには色々な団体の方が参加しておられ、毎年参加の顔見知りの方、今年初めての方など様々です。お互いお話をしながら、それぞれの愛の活動を知ることができます。私たち友の会も、一年通して、全国各地からバザー物品が集まります。それを準備し売る人。バザー会場に来て、買ってくださる人。沢山の方々の愛の連鎖を再確認する1日となりました。これからもご協力をお願い致します。



バザー協力者 35名(団体含む) 寄付支援者 221名(団体含む)

使用済み、未使用切手・未使用、書き損じハガキ・外国コイン 89名(団体含む)

ご支援、ご協力いただきました。ありがとうございました。

事務局から

2016年12月～2017年6月

14組の方がご入会くださいました。よろしくお願い致します。

毎月10日には、イエスのカリタス友の会の会員のためのお祈り(ごミサ)が、イエスのカリタス修道女会管区本部修道院聖堂において捧げられています。どうぞ心を合わせてお祈りください。



使用済み切手の収集にご協力ください

イエスのカリタス友の会は、2009年から使用済み切手による支援を始めました。現在も、全国から多くの使用済み切手が送られてきております。皆様の善意あるお心に感謝するとともに、“一人ひとりの善意がこんなにも大きな活

動へ”とつながるのかと感動する毎日です。この度、皆様から送っていただき、切手整理日に仕分け・整理されたもののうち、2014年～2016年分をここにご報告させていただきます。

日本の使用済み切手… 122.245 kg → 97,796 円

外国の使用済み切手… 6.05 kg → 12,100 円

合計 109,896 円

この収益金は、皆様からのご寄付と同様に、友の会会計に加えられ、海外で宣教女として働く

シスター方の活動の支援金として送付されます。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

使用済み切手の取り扱いについて

★ 切手は台紙から剥さずに送ってください。その際、切手のふち「ぎりぎり」に切っているものは、対象外となる場合がございますので、切手から7mm～1cm以上残してから切るようお願いいたします。切手のギザギザの部分が欠けているもの、破れているものや折れているもの、汚れやテープがはっているものなどは対象外となってしまいますのでご注意ください。なお、ご家庭などに、

使用済み切手以外に、書き損じハガキ、返信用ハガキで使用していないものがありましたら、イエスのカリタス友の会事務局宛てに送ってくださいますようお願いいたします。ベルマーク、使用済みテレホンカードは、友の会としては集めておりませんが、別の事業所等にお渡しさせていただいております。ご了承ください。

切手整理の日について

★ 毎月第2月曜日、午後1:30～3:00 管区本部修道院の一室にて、使用済み切手整理を行っております。互いの近況や最近の出来事などを話しながら和やかな雰囲気の中で作業を行っております。どうぞお気軽にいらしてください。



イエスのカリタス友の会 会計報告

2016年4月1日から2017年3月31日まで

(単位：円)

収入の部	
科 目	金 額
寄付金収入	6,897,548
一般からの寄付金収入	5,464,776
CDによる寄付金収入	1,432,772
その他の収入	1,567,936
バザーによる収入	1,243,565
雑収入	324,371
前年度繰越金	1,834,965
収入の部合計	10,300,449

(単位：円)

支出の部	
科 目	金 額
宣教活動支援費支出	6,152,888
イエスのカリタス会 ブラジル準管区 サン・マテウス カリタス学園奨学金援助	3,704,350
イエスのカリタス会 リマの聖女ローザ準管区(ボリビア) オガールファティマ職員2人の給与	1,070,198
イエスのカリタス会 リマの聖女ローザ準管区(ペルー) アントニオ学園の雨漏り修理のため	519,600
個人から寄付先を特定されたもの イエスのカリタス会 南スーダン イエスのカリタス会 ボリビア	698,740 160,000
運営費支出	332,550
友の会だより印刷・送料代	264,830
郵送代	1,234
バザーの場所代、バザー収益の一部寄付代	41,308
消耗品費支出(封筒、ビニールなど)	18,678
手数料支出	6,500
次年度繰越金	3,815,011
支出の部合計	10,300,449

皆様のご支援のおかげで、上記の援助を行うことができました。
心から感謝申し上げます！





事務局からの声



友の会員そして、友の会を御支援下さいます皆様方の多大なる御協力が、シスター方が派遣された宣教の地で、実り多い形になっております事に、改めまして感謝を申し上げます。現地で活躍されておられるシスター方も、不便な生活を余儀なくされている中で、その国の子供達の環境をより良くしたいと言う願いから申請されてくる内容に、出来るだけ応じてあげられるのも、皆様の御厚意のお蔭でございます。現時点では、南スーダンの情勢が厳しい様です。現地で活躍されているシスター方が無事に、安全に活動が出来ますように、皆様と共に祈りを続けて参りたいと思います。(Y.M.)

緑豊かな修道会が経営する幼稚園に勤務している娘が、帰宅して大変なことよ！と興奮して話し始めた。神父様が、毎週水曜日は、お母様のためにミサを捧げますと仰ったのよ。お目にかかったこともない、私のためにと言葉に言い表せない、感謝と喜びでいっぱいになった。何時の日だったか友の会たよりを、娘を通して差し上げたことがあることを思い起こした。友の会だよりをご覧になって、全ての人のために水曜日はお祈りをしてくださっていることと信じて、聖霊きてくださいと、わたしもお祈りいたします。知らないところで、沢山の方が祈ってくださる幸せを嬉しく思うこのごろです。(T.I.)

飲む点滴とも言われる甘酒を作るようになりました。ご飯と麴が発酵して出来上がる甘酒は子供の頃の冬のおやつ。でもご飯粒の残ったようなブツブツが苦手だった私も今はこの味の虜(?)になっています。甘酒を発酵させるために居間の炬燵には大きなお櫃も座を占めていたことも思い出され何もなければ手間隙を掛けた生活があったことに気がきます。両親がケアハウスに入居し空き家になりガラーンとした実家。懐かしさと寂しさの入り交じる思いを甘酒と共に味わっています。(K.K.)

今年2月に母が緊急入院し、お見舞いの為実家へ。我が家は果物農家、桃をはじめ、イチジクの木が大小合わせて24本あります。お見舞いの合間に、剪定されたイチジクの枝を集め、運びやすいようにサイズに揃えて切る仕事をしました。なれない作業ということもありますが、夜には全身筋肉痛になっていました。果物を育てる大変さと、それを何も言わずに何十年も育てをしながら、こなしていた母の力強さを感じる日々でした。(M.T.)

前号の友の会だより発行の時期と娘の出産が重なり手伝いの為渡米しました。お陰様で元気に成長して離乳食を食べるまでになりました。父の国と母の国が平和を保って行けるように願うと共に、全ての子供たちが平和の中で育っていかれることを願います。(Y.F.)

今、日本にも貧困児童が増えていると聞きました。こんなに豊かに見える日本に何故でしょうか。格差は広がるばかりとのことです。勿論アフリカや発展途上国の貧しさとは全く異なりますが痛みはもっと深刻かもしれません。私達は何をしたらよいでしょうか。小さなことから始めましょう。(K.Y.)

我が家から教会まで徒歩10分だが、私はほとんど車で行っている。近くのスーパーにも車、どこに行くにも車を使う。ある時、“歩かない人間”の私に友人が「ますます足が弱ってしまうわよ」と心配して歩くよう勧めてくれた。早速、次の日曜日、教会まで歩いて行った。途中の神社では手作り市が開催され、若い人たちが思い思いの手づくり品を出店し活気に満ちていた。神社を抜けると緑の塀がつづく。ひんやりした空気、木々の香に思いっきり深呼吸をしてみる。ひっそりと咲いていた薄紫の花は何という名だったかしら・・・など今までに味わったことのない清々しい気分教会に着いた。帰路も友人とお喋りしながら帰宅した。歩く楽しさを教えてくれた友人に感謝！(H.Y.)

バザーのお知らせや報告、スモールクワイアによるコンサートのお知らせ、活動報告などが、イエスのカリタス修道女会のホームページでもご覧になれます。海外や日本で働くシスターたちの宣教活動、CDのお申し込み方法なども載せてありますので、ぜひご利用ください。<http://www.m-caritas.jp>

イエスのカリタス友の会に入会しませんか？

ご入会くださる方は、ご氏名、ご住所、入会希望の旨などを下記の友の会事務局までお知らせください。電話、ファックス、eメール、どの方法でも構いません。お待ちしております。

寄付金受入れ口座

加入者名 イエスのカリタス友の会

郵便振替口座 00160-2-564970

発行 イエスのカリタス友の会

〒167-0021 東京都杉並区井草4-20-5

TEL: 03-3396-2171 FAX: 03-3396-2150

e-mail: tomonokai@m-caritas.jp

代表 山縣久美子 事務局長 片山久美子

